

介護老人保健施設しおん

症 例 概 要 ご利用者 80歳代 男性 （要介護1）

利用期間 ：訪問リハビリ2022年11月～現在

現病：右大腿骨頸部骨折

既往：脊髄硬膜動静脈瘻摘出術後、腰部脊柱管狭窄症

経過：2019年より腰部脊柱管狭窄症あり、経過観察をしていた。2022年6月に整形外科受診時に脊髄動脈奇形が疑われ、大学病院脳神経外科に紹介、入院となり脊髄硬膜動静脈瘻摘出術を施行する。その後リハビリ目的で石巻健育会病院に入院となる。同年11月に退院し自宅退院となり独居での暮らしが再開、しおんの訪問リハビリが開始となる。2024年1月にご自宅で転倒し右大腿骨頸部骨折を受傷、人工骨頭置換術を施行後、同年同月にリハビリ目的で石巻健育会病院に入院、同年3月に退院し、訪問リハビリが再開となり現在に至る。

内 容

現在、独居で生活をしています。入院中は訓練レベルでの杖歩行を行っていましたが、転倒、骨折歴を踏まえた上で耐久性も考慮し実用面では歩行車が妥当であるとの判断から杖歩行訓練は自宅内でのみ行っていました。家事や入浴は介護サービスを利用、買い物はご友人やご近所の方よりサポートを受けながら生活しています。身体機能面では「転ばないように歩きたい」というご希望に合わせた訪問リハビリを週3回提供。転倒、骨折の受傷により二度入院後、現在に至るまで意欲的にリハビリに取り組んでいます。土手で坂路を使った歩行訓練を重ねていたある日、他の訪問リハビリの利用者さんがノルディック用の杖を用いて自主トレーニングで歩いているところに遭遇。「自分も二本の杖を使えば外を歩けるんじゃないのかな」という期待と願望が芽生え、それ以来担当PTと共に杖を二本用いての屋外歩行、坂路歩行訓練も併せて行うようになりました。このリハビリを重ねて能力向上を実感して自信をつけたご本人に更なる願望が芽生えました。「今なら日和山の坂を上がれるんじゃないだろうか」。目標達成に向けて日和山を登るルートをご本人と一緒に選定。勾配の斜度、目標地点までの距離、曲がり角や車両交通量を踏まえて最終的にご本人が決定しました。「ここまで自分で決めたんだから登り切れないとカッコ悪いな」と達成に向け意欲満々で当日を迎えました。

ご本人にとって目標達成がかかった企画であると同時に、転倒リスクや途中でのリタイアなども視野に入れた綿密な計画のもと実施することが出来ました。

目標を設定して達成する。そこで自身がつき少し難しい目標を設定する。そこに喜びを感じ一生懸命に

取り組まれる姿は「人生の主役は自分である」という事を語っておりキラキラと輝いていました。

関わった職員：理学療法士